

《鷹番住区火まつり大会が4年ぶりに完全開催されました。》



2020年（令和2年）少しずつコロナウィルス話題が出始めていました中、1月12日（日）に行われて以来の「鷹番住区火まつり大会」完全開催が2024年（令和）6年1月7日（日）に行われました。

当日は天候にも恵まれ、しばらく行っていなかった「焼きいも」「雑炊」「甘酒」を参加して下さったみなさまに配布することが出来ました。

また、「鷹番クイズ」として、「どんど焼き」中央に据え置いたダルマさんが、「火入れをしてから何分何秒後に焼き落ちるか？」というクイズも行うことが出来ました。



11時の開会後には、消防団と各町会消火隊による「碑文谷公園弁天池」に向けての一斉放水演習や、「消火器の扱い方指導」が行われました。



芝生広場では、子どもたちを集めて「伝承あそび」コーナーを配置して「羽根つき」「けん玉」「ベーゴマ回し」をボランティアの手を借りて行いました。同じ広場では「木芯こま」「ぶんぶんごま」の工作コーナーも同時開催。たくさんの子どもたちが参加してくれました。



昨年・一昨年はコロナの影響で、お正月のしめ縄やお飾りを焚き上げる「どんど焼き」のみを行いました。

4年ぶりに「焼きいも」などを実行するために事前から何度も準備が必要でした。必要な物の準備や買い出し、「甘酒」は前日に住区センターで丁寧に手作りしています。

「雑炊」は会場設営が出来てから材料をカット。発災時に使用する釜にお湯を沸かすところから始まります。お米は目黒区役所防災課から頂くアルファ化米を使います。このアルファ化米も災害が起こった時には地域避難所で使用されるものです。



設営は朝の 7 時からの一斉スタートです。各町会の青年部のみなさんが中心になって、町会会館や碑文谷グラウンド倉庫・住区センターからテントやいす、必要な物品を碑文谷公園に運び込み、テントの設営他会場作りが始まります。焼きいもは手作りの焼きいも焼き機に石を敷いて、薪を焚いて焼きいもを作れる状態にするのが大変です。

サツマイモは水に浸した新聞紙にくるんでからアルミホイルで一つひとつ包みます。



出来上がった雑炊や焼きいもを配ります。

「ありがとう！」って言われると準備の苦労もどこへやら…
こちらこそ「ありがとうございます。」嬉しい事です。



丁寧に焚き上げます。



焼きいも機の後片付け
高温になっている為水をかけると一瞬で蒸発します。



後片付けも全員で行います。受け取ったしめ縄やお飾りは燃やせないものを取り除いてからお焚き上げします。みなさん、出来るだけ事前に燃やせないものを取り外して頂けますと助かります。



今回で36回目になった「鷹番住区火まつり大会」が無事に終わりました。

実施のねらいとして、

○しめ縄、正月飾りなどを集めて一斉に焚き上げ、焼きいもや雑炊を振舞われた町の人たちがふれあう中で世代の交流を図る。

○火に対する注意を促すとともに、火災から町を守るため、日頃訓練している消防隊の演習に参加する。

○正月に行われる伝統的な遊びを通して、豊かな人間関係を育て文化伝承の機会をつくる。

の3点があります。

「へえ～、そんな考えでやっているんだなあ」って、ちょっと覚えていてくださったら幸いです。コロナの影響で停滞していた地域活動もだいぶ以前に戻ってきています。久しぶりの行事にたくさんの方々にご参加いただけたことが何よりです。また来年も「鷹番住区火まつり大会」が開催できます様に頑張ります。ご参加いただいた皆様、ご協力いただきましたたくさんのボランティアの皆様・各団体の皆様ありがとうございました。

「鷹番住区火まつり大会実行委員会」